矢作川流域圏懇談会通信

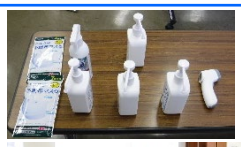
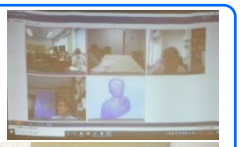
R2 海部会編 vol. 1

発　行　日：令和２年 ９月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 43 回海部会 WG を開催しました！

７月20日（月）に今年度初の第43回海部会WGを、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で開催しました。今回の海部会WGでは、活動進捗報告、今年度活動目標の確認及び、バスツアーに関する協議などを行いました。また、吉田漁業協同組合より、漁場栄養塩とアサリ・ノリの状況について、ご報告いただきました。

日　時：令和２年７月20日（月）　13:00～15:30
場　所：西尾市役所会議棟　２階　第４会議室
参加者：27名（内オンライン参加４名）　※事務局を含む

◆主な活動内容

1　令和元年度までの活動進捗報告と今年度の活動目標について

◆令和元年度までの活動進捗報告
令和元年度は、三河湾の生物資源回復に向けた取り組みに関する意見交換、海のモニタリングによる情報の蓄積および市民への情報発信に取り組みました。

◆今年度の活動目標
これまでの活動成果や課題をふまえ、今年度の目標を以下のように設定しました。

【活動目標】アサリの問題、マイクロプラスチックの問題、土砂の問題に対して、情報共有と意見交換を行う。

【テーマ別の活動目標】
ごみの問題：ごみの質も以前とは変化している。特にマイクロプラスチックの問題は、拾って処分できるものではないため、最新の情報を共有する。
豊かな海の再生に向けた取り組み：三河湾の生物資源回復に向けた取り組みに関する意見交換と、「きれいな海＝豊かな海」ではないという認識の周知を行う。
海と人との絆再生：海の生き物と触れ合い、土砂移動に関する情報共有を行うことで、上下流連携をめざす。

2　第１回勉強会（バスツアー）の内容について

市民部会が進めている9月7日～8日のバスツアーについて、海部会が担当する矢作川浄化センターと吉田海岸の内容を協議し、以下の内容が決まりました。

※7月31日、新型コロナウイルス感染拡大防止のため順延が決定

【矢作川浄化センター】
・ 2日目（9月8日）に、60分程度の解説を予定。
・ 解説のテーマを明確にするため、事前に浄化センターとの調整を行う。

【吉田海岸】
・ 2日目（9月8日）に、90分程度の解説を予定。
・ 海の生き物の話、アサリの状況などについて、海部会から説明する。

3　話題提供：アサリ漁業の現状について

吉田漁業協同組合の石川組合長より、矢作川浄化センター放流口～放流先海域における窒素・リンなどの計測結果と、アサリ・ノリの現状について、説明していただきました。ご説明いただいた主な内容は、以下の通りです。

・ 一色干潟でのアサリは、ほぼ皆無の状況。砂場だと稚貝を放流しても姿を消してしまい、春には1個のアサリを探すのも大変な状況だった。一方、渥美湾ではアサリが生息している。この違いは、流入する栄養分の差によると考えている。
・ 増量放流の結果、リンの値は目標値を達成してきている。しかし、クロロフィルaの濃度は低いことから、アサリの餌となるプランクトンは、少ない状況である。かろうじてハマグリが、全浜で増えてきている。
・ 窒素は目標値を下回っており、ノリの質が悪い状況が続いている。
・ 現在の栄養状態で、一色干潟の漁獲を蘇らせるのは数値的に至難の業である。窒素やクロロフィルaの濃度が上がり、貝たちが生息できる漁場になることを期待したい。

◆話し合いでの主な意見　（• 意見　➢回答）

●令和元年度までの活動進捗報告と今年度の活動目標について

・市民部会でマイクロプラスチックやネオニコチノイドをテーマに、勉強会を計画するという話がある。（髙橋）
　➢ 今後、矢作川流域圏懇談会のメンバーに情報を発信していくことで話が進んでいる。（事務局）
・アサリについては、貧栄養化の問題に関連して重要な課題になっている。また、当初から重要な課題として挙げられてきた土砂移動に関する問題が、なかなか進展しないので、情報共有という形で進めていきたい。（石田）
・「河川文化を語る会」の講演会で、マイクロプラスチック問題や海のごみを減らすために川で取り組んでいる内容について取り上げる予定である。ぜひ海部会のみなさんにも関わっていただきたい。（近藤）
・マイクロプラスチックや土砂の問題は、山川海に関連してくる。市民部会での勉強会などを通して、他の部会と意見交換をしながら連携して考えていくべきである。（青木）
・佐久島は、三河湾の中で昔ながらの自然を有する象徴的な場所である。（内藤・髙橋）
　➢ WG の中で、佐久島とマイクロプラスチックの話題を取り上げていきたいと思う。（事務局）

●第1回勉強会（バスツアー）の内容について

・吉田海岸は 90 分あるので、２名で解説するのも可能だと思う。（髙橋）
・吉田海岸では、アサリの話を吉田漁業協同組合 石川組合長に、鳥や魚などの海洋性の生き物の話を髙橋さんに、それぞれ解説してほしい。また、西尾市佐久島振興課の三矢さんにも解説などをお願いしたい。（近藤）
・矢作川浄化センターには、質問を事前に送るなどの対応をし、テーマやポイントを絞って参加するほうがよい。（青木）
・矢作川浄化センターと双方の論点が整理でき、きちんと議論できるよう、事前に協議するほうがよい。（近藤）
　➢ 矢作川浄化センターと事前に調整することで進めていく。（事務局）
　➢ 事前協議のメンバーとしては、鈴木先生、井上さん、吉田漁協、国土交通省豊橋河川事務所事業対策官がよい。（近藤・髙橋）
　➢ 海部会座長として、できれば同行したい。（青木）
・見学後に矢作川流域圏懇談会が積極的に行動しないと、ただの社会科見学で終わってしまう。（東幡豆漁協 石川）

●話題提供：アサリ漁業の現状について

・豊川と矢作川という大きな川があり、本来なら、山から川を通じて、栄養塩が海に出てくるはずだが、これがどこかで消えてしまう。こういう事態が起きるということは、自然が壊されているということだ。岩場には、まだアサリが生息している。また、岩場や干潟にいるアサリ以外の生き物も見ていかなければならない。（東幡豆漁協 石川）
・我々が生まれたころの海は、生き物がたくさんいたが、今は減ってしまった。護岸の整備や河川の整備が自然を壊した一番の要因だと思う。海は危機的な状況で、自然を大切にしなければならない。（東幡豆漁協 石川）
・アサリは、ここ３年くらい繁殖しない状況が続いている。この状況をもっと発信していく必要がある。（石田）
・アサリは、渥美湾では採れているということだが、その理由を教えていただきたい。（青木）
　➢ 渥美湾は、年間を通じて川から作物の肥料などが出てきている。そういう河川水の栄養分が、渥美湾での貝たちの生息を可能にしている。（吉田漁協 石川）
　➢ 渥美半島は、まだ比較的農業が盛んで、畜産も盛んであることから、栄養塩環境は、西三河地区よりも豊富であると感じている。（青山）
　➢ 養鰻池の水を浄化する機械が導入されて、池の水替えが極端に少なくなった。これもノリの栄養分である、窒素の濃度を下げている要因ではないかと思っている。（吉田漁協 石川）
・生物生産の一番の基盤になる栄養塩類が 1970 年頃から減ってきた。その影響で、赤潮や貧酸素化が少なくなる現象より先に、生物がどんどんいなくなっていった。（石田）
　➢ 以前は、雨が降って河川水が海へ流れ出たら、プランクトンが湧いてくるのがわかった。見た目でも透明度がなくなって、プランクトンが増殖しているのがわかったが、今の海では、その状況が見られない。（吉田漁協 石川）
・護岸などの影響で、海岸の空間の多様性がなくなってきている。干潟や藻場、砂浜があったころは、再生産の場があったはずだ。栄養塩類だけでなく、空間の多様性も求めなければならない。（近藤）
・浜には必ず浅瀬があった。浅いところだと餌が生息し、生育できるが、それがなくなってしまっている。（石田）
・窒素やリンは、資源であると認識する必要がある。（石田）
・この状況を懇談会の中だけではなく、広く世の中にも伝えないといけない。（近藤）

今後の予定

■第 44 回海部会 WG
　日時：令和２年９月 15 日（火）14：00～16：00　　場所：西尾市役所　会議棟２階　第４会議室

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 中村
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100
＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。